

旅 へ

—東京駅から—

新庄よしこ



夏休みのある日、どういふ続きあい、そうだったのか、今はすっかり忘れてしまいました、とにかく幼稚園のことを何ということなく考えつづけておりました時、ふと、あの東京駅の構内が眼に浮んだのでございます。そうだ、あの乗車口に一足はいれば、改札口がある、切符売場がある、荷物受付、自動電話、売店、郵便局、待合室、つづいて食堂、あの大きな時計、ポスターの数々。そう考えつきましたら、その中のどれでも保育室に結びつけて、先生と幼児との協同作業が、かなり長い間つづけられるような気がいたしました。そうだ、あれをやってみよう、とそう考えが決りましたので、落ちついてその一つ一つについて、もくろみを立て、大体の見当をつけてみました。ここで東京駅をそっくり保育室内に移した場面が、おぼろげに私の頭の中に出米上ったのでございます。これがちょうど第二

保育期を目前にした夏休みの末のことで、是れからが私も子供達も仕事にとりかかるといふ大事な時期だ。是非やってみよう。だが此の総てを決して急いではならない。修了迄の間にすべて完成すればよい。売店をまずはじめにして次は何にしようか。食堂は年長組のいづころがいいかしらなどと、保育案のあら筋だけをたてたのでございます。

そこで、九月、第二保育期が始まって二、三日目から、いよいよこの計画をすすめてみました。この時には余程この仕事についての目的なり、計画なり、方法なりがはっきり具体的に私にも解ってきておりましたので、次のようなことを考えられるようになったのでございます。

一、一つの仕事が年少組から年長組へと引きつづいて出来る作業であって、次から次へと展開し得る可能性があり、個々と

しても作業価値がある。またその個を総合すれば、東京駅という一つの大きな仕事となり、そこから更にいくらでも伸び得られると思うが、さてどう変って行くものであろうか。

一、先生と幼児の協同作業、と云つても、私が主になって進めて行かねばならぬから、常に次に取りかかる仕事を考えておくこと。又生活活動を主にした作業は、どうかすると活動にのみとらわれて、手技を忘れがちになり易いから、どこかにこの活動に関係した手技を十分入れて、一人一人の製作力を伸ばしていきたいこと。

一、これは最も興味深い汽車あそびから始まったことであるが、ただ遊びとしてはばかりでなく、日々実際に行なっている事実をそのまま持つて来られること。

一、年少組はその心配もいらぬが、年長組になると、一つの店だけ、例えばおもちゃ屋だけにすると、売り買いは、売り手買手手の人数が少数に限られてしまい、どうかすると、組での勢力家に独占され易いものだが、売店、切符売場、食堂などでは動く人数を多く要するから、自ら組全体のどの子にもそれぞれ活動の機会を与えることが出来る。

以上が、仕事にとりかかる前に思い浮んだことです。

これからのことは、右の計画を実際に行なつてみた経過を順序のままに記すのですが、その間にも考えが変わったり、

止めてしまったり、途中で思いついたり、そうする為には相当の理由もあるもので、それらを織りませて書きとめて置きたいと存じます。

売店、改札口、切符売場、荷物受付、はかり、食堂、駅の弁当売、ざつとこういう順序でございませう。

売店

まず最初に売店を開くことにしました。この頃にもなれば（年少組の第二保育期）子供一人ずつについて、大体この子は、どういう子であるということが、受持に解っておりませうので、計画した仕事に向つて、一人一人を適当に動かすことが出来ませうし、子供の方としても幼稚園生活に慣れてきておりますから在園中を通じてこれからが一番仕事に向つて専心力を注がせ得る時でございませう。従つてどんなん仕事を沢山与えて伸ばすことの必要な時でありますから、紙を材料とする手技製作として売店の種々の品物を次から次へと作らせ、それを次から次へ店に置いてみようという考えました。

改札口

とりたてて申せば、これは、子どもが毎日自由遊びでしています。切符を買って入口からはいり、切符を渡して出口から出

る、あの事実を充実してやることで、これは先生の製作の方が多うございます。材木屋から約八センチの角材を買って来て組立て、ニスで塗りました。柵と柵とは鎖でつづけました。鎖は、有り合せの黒い新モスを、おちゃんちゃんの紐のようにして、輪にいたしました。入口出口の札は、何でも宜しく、こういう場合幼児であるからときつと、カナにする必要はないと存じ、そのまま入口、出口として置きました。入口の方に一人の幼児が切符切りを持って立っており、客の出す切符に鉄を入れ、出口の方にいる幼児は客から切符を受取ります。初めはお茶の水のバラックで始めましたので、どうせ引越すのだからと思ひ、柵を立てるのに、床にじかに打ちつけましたが、新園舎に移りましてからは、建物に一本の釘をうつこともしたくないと存じ、立てる方法に困ってしまいました。他用で来た大工さんに相談しました処、すぐ、立つように作ってくれました。床にじかに打ちつけたのとは違って、どこへでも移動出来ますので、この改札口は遊びの動くままに、室内なり、或は庭なり、室から庭への境へなり、気に向いた処に持って行かれて大層都合が宜しいでございます。

切符売場

窓の高さを幼児の背に比べて作りただけで、外には大し

た工夫ありません。是も組立ては先生の仕事で、釘を打つこと、塗料（エナメルで、表・緑、裏・白色クリーム）を塗ること、窓口の網を針金であむことなどが、幼児の仕事となりました。是を使っているうち、切符を置く棚や、時日を入れる設備（板と板との間にちよつと切符を挿してから売る）などがほしいという幼児からの注文で、後から加えました。

「熱海まで、二枚下さいな」「満洲……一枚」

「大阪、大人と子供です」「子供は何枚」

「子供は二枚下さい」こうして切符を買っております。

嬉しいことには、組の中でも至って無口な、どうかすると、二日も三日も口をきかないといった、そして常に一人遊びばかりをしている子供が、ここでうれしそうに窓口顔を出して友達と話しているのが度々見受けられるようになったのでございます。今迄、話をしない、友達とは遊ばないと入園以来看板をかけて来ていたので、私が見ると、眩しそうな様子をするので、わざと知らん顔して室を出たりしたこともありましたが、此頃ではそんな遠慮もいらなくなりました。

切符は、画用紙で、始めは大ききも定めて、行先を書いたり、ミシンを入れたりしておりましたが、じきに使つてしまいますし、大急ぎのときは間に合いません。それ程急にこの切符売場が利用されて、「じゃあ切符買って来よう」と云つては飛

んで来ますので、一々作っては間に合いません。この頃では画用紙の書き古しをためておいて、大急ぎで切っては与えております。

大時計

大きなもの、確りしたものと思って、板にしました。四十センチ四方のベニヤ板を(十五銭)四角のままに使い、数字はエナメルで幼児に画いて貰いました。針は同じく細い木で自由に動かし得るようと云っても、真中に釘一本打つだけでよろしいので、駅の為にと作ったものが、お弁当の時になれば、椅子を持って行ってせのびしつっ十二時を指したり、お帰りには、誰かが飛んで行って一時半にいたしております。時計そのものを知らせるのは早うございますが時刻の観念位はそろそろ始めた方がいいと思ひまして、時には私から何時ごろでしょうねと、この素朴な大時計の針を動かして聞いて見ることもございます。

電話

東京駅には電話が沢山あるよとある子供が申しましたので、それだけでなく一度電話を室において見たいと思ひていましたこととて、早速、あき箱でおかしな物を作ったのですが、どうもわれながらみつともなくて、でも子供はそれで相当に話

をしておりました。新園舎には余り不似合なので、材料費の余裕が出来ました時に電気屋に相談したら、(玩具屋にあるのは余り小さいので)店の若い息子が面白がって、自動式の、鈴のなるのを作ってくれました(二円五十銭)。それを二人で話し合う声がそのまま聞える程度の距離に備え付けました(線で話の出来るのは余り高価になりますので)。幼児は順々に待っていてさも通話していると云う格好で……。

「あした大阪に行きませんか」

「あした東京駅に来て下さい」

「今日サーカスに行きませんか、大急ぎでね」

その頃はサーカスばかりでなく、ちょうどあの五、六月頃は何りなしです。電話ばかりでなく、ちょうどあの五、六月頃は何でもかでもサーカス、動物の玩具を出して来て、積木で一つ一つの動物小舎を作り、動物つかいの上手なM、T、Y、など毎日毎日幼稚園に来るなり、虎をおどらせる、象に芸をさせる、ライオンに輪をくぐらせます。私達も面白くなって、レコードをかけて景気をつけたりしました。間もなく小さい人達が、庭側の入口からゾロゾロ見物に来る。すると、駅のキップ売場が忽ちサーカス用となってお客さんに切符買っていらしゃいと命じる。買った子は入口からはいって、動物の近くで腰かけて見物、終ると出口から帰る。小さい組の人達が一ぱいなので、

「僕お菓子買って上げよう、キャラメルがいいね。たばこも買って来て上げる」というわけで、このサーカス興業中に売店の品物は殆んど売り切れで、又新しく作り直したようなわけでございしました。是が一週間もつづきましたろうか、あんまり、お祭り騒ぎもどうかと存じ、ソーッと動物をしまったようなわけでしたが、ほんとうに面白うございました。その時、電話が駅のものとはすっかり関係を離れて、家の電話に使われておりまして、大抵はお台所の御用です。

「肉を百匁持って来て下さい」

「バナナを一チヨウ大急ぎで持って来て下さい」

一方でリンがなると通りがかりの子が大急ぎで電話口に出るのを屢々見かけました。誰とも遊ばない、自分からは口を開こうとしない子が、誰もいない時、一人で電話口に向っている時など、大急ぎで私が片方になり電話でその子に話しかけて、思いがけなく話し合いの出来たこともございました。

荷物受付

どこの駅でも荷物をあずかっておりますし、旅への必要品でもあり、荷物受付の有様を考えて見ました。大きな行李、トランク、ふとんの包み、菰包み。そこで先ずトランクから始めようと思いつき、私が一つ作って見ました。幼稚園引越しの時拾っ

て置いた電気用具の空箱、ダンボールの大きいものでした。これに、提げる所は、靴屋で不用になった皮を買って来て（三十人分五十銭位）両端を鋏（足二つの）で止め、角の飾り皮は茶色模造紙。これの一つ作っておいて、それから子供の家からなるべく大きい空箱を持って来て貰って、一人ずつ自分のトランクを作らせました。大きい物には、アメリカとか、イタリー・フランスなどと紙を貼りました。今迄おぼろげに聞いていたのが、国の名であることをはっきり意識しようでした。

こういう時の空箱に、電気用具の空箱、扇風機とか、ストーブのはいつていたものなどは何に使ってもいいようで、堅くて小さい普通の空箱よりも、ダンボールのものは、大きいことや、ザクリとした手ざわりなどが、幼稚園の製作に適當でございます。食料品店などにも沢山ありますので、買ってもお安いもの、大いはいただでも貰われましょう。

トランクだけではきまりすぎるので、菰つつみや、小包式のものなど荷札をつけて四つ五つ作っておきました。是等は何れも軽いので子どもが持ち上げて見て軽うございませと実物から来る荷物の感じを減退されますので、適度の重さをつける必要があると存じまして、不用の古い絵本などを入れて重く作りました。

この雑然とした荷物を汽車に積んで、荷物列車にすることが

よほど嬉しいようで、幾度か繰返されております。「この荷物にはガラス（ガラスで作ったものの意）がはいっているから大事にしてね」と一人が云うと、ソーツと持ち運びしていました、取扱注意が自然に行なわれていることなどを見受けました。

この鞆の中に、自分のほしいものを作って入れさせたら、手技製作にも面白いものが出来ると思いましたが、ここでは余り微細になることを避けて止めておきました。その代り、何か入れるものが欲しくなった時には売店から買って来ては入れておきます。

はかり

駅の荷物受付にはかりを使っていました。

おぼろげになりとも重量の観念を得させたいと思ひまして、前々から、何かの方法ではかりを使って見たいと思ひつていました。或時は、お砂糖屋さんでもしてみようかなど思つたこともあつたのですが、今も手をつけないでおりました。ちょうどこの駅で、荷物をあつかつていますので、それと関連してと考へました。その後、毎日の往復に駅での台秤を見ては、工夫もしてはみましたが、これは幼児には不適當に思われましたので、やっぱり天秤がよいと思ひ、幼児の背丈に合せて、私共でこれを作ることとし、約十センチの角材を真直に立てて、これ

に横の桿をつけたものでございます。

分銅は大小数々の石を布切に包んで、重さに応じて取りかえられるようにしました。

前にも述べましたように、むずかしいことや、細い目盛りは無頓着にして、石の分銅と左の荷物の重みの平均によって、物をはかることのおそびをいたした迄でございます。

私としては何年も前から考えていたのはかりが、駅の荷物あつかいというまことに所を得た機会にもつて来ることの出来たのが大きい喜びでございました。

食堂

六月になって、シヨクドウ、セイヨーケンという札も出ししました。主事が喰いしんぼうだと、違つたものだと通りがかりの先生に笑われました。

食堂をしてみたい、とはかねがね思つていました。御馳走をこしらえて、お客さんが食べに来て、コックさんがいて、註文の品を運んで来る給仕さんもいて、それがちょうど汽車のあそびで、食堂がほしいとか、お弁当がどうか申しますので、まず看板を出したのでございます。衝立で室をしきつてここを食堂にして、テーブルには白いきれをかけておいて、それから食料品の製作にかかりました。

駅のお弁当売り

汽車が動き出してから、やたらに売店の品物を持って来ますので、別に、首から下げる箱へ、お弁当やら、アンパンやら適宜の品を作って入れました。

去年の夏私が頭の中で考えた時と、それからつづいて幼稚園で実際にしてみました今、思いの外に子供が動いてくれますことよって、次へ次へと、又新しい方面にも展開して行きました。まだまだ伸び得られるのでございますが、修了を控えた今、他の方面にもちと力を注ぎたいこともございますので、惜しいと思いつながらここで打ち切り（仕事だけは）ましたのでございませう、其後も売店での売り買い、入口出口の往復、食堂ごっこといった所謂幼児の生活活動は間断なくつづけられております。売店にしても、キップ売場にしても食堂にしても、あそびは時は定めておりませんので、心の向くままに任せて置きます。

又、この仕事でよかったですと思いましたが、前にも申しましたように、店一つのような時は兎角組での勢力家に主要役目を独占され易うございますので、先生で挨拶しなければなりません、この仕事では活動する場所が方々にございますために、大きく申せば一時に組の子全部が活動し得られるということ

ございます。

こうして参りますと、食堂にはいる時はきつと自分の抽出しから財布を出して来て、食べてしまおうとお金を支払う。切符を買う時は鎌倉、大阪、神戸と嘗て自分の行ったことのある行先をいう。もし是が後二年迄もつづいてゆかれるものなら、汽車の時間表と時計と、賃金と数と、地方の名称と文字と、構えずして自ら伸ばし得られて、保育へのなだらかな流れに向けられるような心地がいたしました。

そうして、幼稚園時代の子供は他愛のないもの、手応えのないものとのみ思っている人々にこの様子を見せて上げたいと思います程、その活動が発刺としている上に、食堂での註文の仕方、荷物の扱い等実に確りしたものでございます。これらの仕事に対する子供の動き方を一人ずつながめておりますと、これが遊びとは思われない程の真剣味があふれております。ごっこというのは売店や食堂の活動を表わすに最もいい言葉であると思ひますが、どうもそこには軽やかな感じが多分に含まれていような懸念もございまして、どうかと思っております。むしろかしいことを申すようでございますが、つまりは大人から見れば淡く見えても幼児自らは活動をつづけております、その力に私が動かされて幼児の活動をあらわす言葉迄、いろいろなと考えてしまうのでございます。（昭和八年十一月記）